

オリエンタル系ユリの新しいボックス栽培技術

近年、ユリの施設栽培では連作による土壌環境の悪化に伴う切り花品質の低下が問題になっています。そこで、その対策として、球根を運搬用ボックスに植え付け、養液土耕栽培装置を用い、生育に合わせて点滴チューブで灌水と施肥を同時に行うボックス栽培技術を開発しました(図1)。

開発した技術の主な特徴は、次の3点です。

- ① 球根用運搬ボックスを使用
- ② 培地は微粉碎したスギバーク(杉皮)を使用
- ③ 養液土耕栽培装置を用いて灌水同時施肥

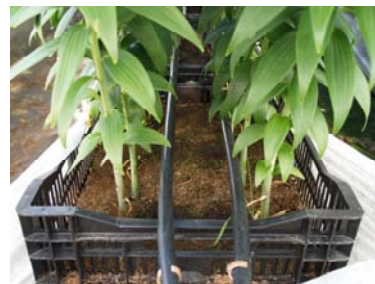


図1 灌水同時施肥方法

栽培ステージに合わせて均一な灌水施肥が行えますので、揃いの良いボリュームのある切り花の収穫が可能になります。

「ソルボンヌ」のボックス栽培では5輪の割合が高く切り花長も長いなど、土耕栽培(埴壤土)よりも品質が優れていました(図2)。

特にスギバーク培地では、茎が硬く締まった切り花が収穫できました(図3, 表1)。

開発した技術は、連作障害に悩む農家の解決手法になるだけでなく、新規に栽培しようとする農家にとっても有効な技術であると考えています。

同時に、今まで利用されず廃棄されていた杉皮をバイオマス資源として有効利用することができます。

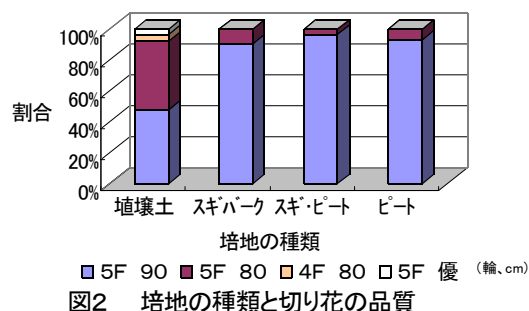


図3 収穫直前の「ソルボンヌ」

表1 培地の種類と花茎の硬さ

培地の種類	花茎の硬さ
スギバーク単用	0°
スギ・ピート混合	9°
ピート単用	6°
埴壤土(土耕栽培)	3°

※切り口から見た先端の蕾の角度、数値が小さいほど茎が硬いことを示す

問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター

TEL (088) 674-1660

農業研究所

FAX (088) 674-3114

花き園芸担当

<http://www.green.pref.tokushima.jp/nogyo>

